

種の概要

房総半島・兵庫県以南、四国、九州、南西諸島に分布。殻長約11mm、殻径約6.5mm程度。殻は小さいが堅固。形は和名が表すように椎の実に似た紡錘型。殻色は茶褐色で光沢があり、白い色帯を有す個体もある。殻口は狭く隙間状で成貝では外唇内側に歯状隆起が生じるため、殻口はより狭くなる。潮間帯上部の転石や漂着物の下、あるいは岩礁地の海蝕棚の下などに生息し、降雨後や夜間などの湿気の高い時間帯に這い出してくる。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○			○

県内分布

豊岡市、香美町、洲本市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。但馬の海岸部では潮間帯上部の転石下で確認されたが生息範囲は非常に狭く個体数も非常に少ない。生息地では直径20cm以上の転石が堆積した最下部に潜んでいるため、見つけることは困難である。確認された個体がほぼ同じサイズで確認地点も波浪の影響を受けるエリアであること等から、生息地及び個体群は流動的ではないかと思われる。淡路島では北部東岸の2箇所死殻が得られていたが、近年、中部の内湾に面した海浜部の岩礫地や護岸石垣の隙間などで生貝が確認された。

保護上の留意点

県内においては、生息に適した環境が多いと考えられるにもかかわらず、本種の情報が非常に少なく、分布状況が未解明である。そのため、沿岸域の生息環境の保全と同時に、さらなる分布調査が期待される。



写真提供：川淵千尋



写真提供：増田修